

R39a 「あすか」による渦巻き銀河の観測

水野 恒史、牧島 一夫、大西 呂尚 (東大理)

渦巻き銀河、特に活動銀河核 (AGN) やスターバースト現象などの激しい活動を伴わない「通常」の渦巻き銀河を X 線でみると、銀河内の個々の X 線源の和が観測され、我々の銀河の観測から考えると、低質量 X 線連星 (LMXB) からの放射の総和が主成分であると予想される。過去の観測では、Einstein や「ぎんが」衛星により、X 線放射の主成分が LMXB 由来であること、その X 線光度に可視光度と相関があることが分かってきた。その一方で、いくつかの銀河からは中性子星のエディントン限界を超えた X 線源が見つかっており、超エディントン天体と呼ばれその正体は謎となっている。

このような背景を念頭に、「あすか」衛星で渦巻き銀河を観測した結果について、春の年會に引続き報告する。とくに、近傍銀河内の X 線源について議論を行なう予定である。